

トップ > 国際 > ヨーロッパ > 記事

ウクライナ侵攻 背後の情報戦 (1) アメリカが見せたインテリジェンスの威力

[2022/03/05 20:00]



「まさか」、「ありえない」。

世界の虚を衝いたロシアによるウクライナ侵攻。

世界中が見ている中でいともあっさり一つの主権国家が蹂躪されていく惨劇を見ながら、得体の知れない胸騒ぎと焦燥感のようなものを感じるのは戦いの壮絶さからだけではない。

明日は我が身だからだ。

ウクライナ侵攻の裏側で繰り広げられていた情報戦についてシリーズでお伝えする。

第1回は、侵攻前夜の動きについて詳報する。

◆「王 プーチン」を知らしめる」会議 一歴史的暴挙への連帯責任

「絶対にNOとは言えない会議」、とでも言えばいいのだろうか。

2月21日のロシア国家安全保障会議の議題は、ウクライナ東部にあるロシア系武装組織が支配する地域「ドネツク人民共和国」と「ルガンスク人民共和国」の独立を承認するかどうか。

世界に向けて配信された会議にはなんとも異様な空気が漂っていた。

一人、ボツンとテーブルに座るプーチン大統領。

そのほかの出席者たちはというと、20mは離れたところに並べられた椅子に神妙な表情で座ってプーチン氏の独白のような進行を見守っている。

「わざと側近たちを離れた場所に座らせて自分が王だということを国民に知らしめる設定」(米情報機関幹部)とも、新型コロナを警戒しての設定ともいわれる謎の配置だ。

千葉のリフォーム会社探し

www.homepro.jp

約1,200社のリフォーム会社を厳選し、優良会社をご紹介します。プロ

JapaNews 24



※日本時間の午後4時から20~30分ほど、一時的にストリームを停止する可能性があります。

RANKING アクセスランキング

1時間 24時間 1週間 1ヶ月

- 1 ウクライナ軍 ロシア軍の機密文書入手か 2022/03/04 00:37
2 ウクライナ侵攻 背後の情報戦 (1) アメリカが見せたインテリジェンスの威力 2022/03/05 20:00
3 変わり果てたキエフ ウクライナ大統領は「NATO弱腰」批判 2022/03/05 19:05
4 ウクライナ支援に自衛隊の「防弾チョッキ」 動くには訓練も... 2022/03/04 19:55
5 【速報】「ウクライナ2都市で一時停戦 住民の退避ルート設置」ロシア国防省 2022/03/05 16:35

もっと見る

KEYWORD キーワード

- ウクライナ オミクロン株
新型コロナウィルス バイデン政権
韓国 中国 ワクチン
Google SDGs 5G
サイバー攻撃 ソフトバンク
北朝鮮 スマートフォン
アップル



プーチン大統領はスピーチが終わると、次々と出席した幹部を指名して、ドネツクとルガンスクの独立を承認すべきかどうか、意見を言わせていく。

答えは承認しかない。忖度するまでもない。ウクライナ侵攻を正当化するために、“独立国となった”ドネツクとルガンスクからの依頼を受けて、ロシア軍は同地域の平和維持に駆けつけて併合する、という見え見えのシナリオが用意されている。独立の承認はそのシナリオの実現に向けて不可欠なセレモニーだ。

この会議、映像からは出席者たちが極度の緊張感に包まれていることがわかる。それもそのはず、この21世紀の世界においてこれまでに積み上げてきた秩序と規範、ルールを踏みじめるウクライナに対する一方的な侵攻という歴史的暴挙の連帯責任を問うものだからだ。

世界が見ている前で一人一人に独立承認への賛意を宣言させることで、後から「実は私は侵攻に反対だった」などと言わせないことがこのセレモニーの目的だ。

「絶対にNOとは言えない」空気の中でハプニングを起こしたのは、スパイ機関、SVRのトップだった。

SVRとは泣く子も黙るロシアを代表する対外情報機関で、アメリカや日本を含む世界各国にスパイを送り込んで諜報活動をおこなっている。かつてのKGBの流れを汲む後継組織でもある。そのトップがなんと「独立を支持する」と言うべきところを「併合することを支持する」と口走ってしまったのだ。

よほど緊張していたのであろう、思わず裏で検討している本当のシナリオをカメラの前で口にしてしまったかのような発言に、プーチン氏はいら立ちと侮蔑の表情で「今はそんなことを議論していない」と一喝した。このSVRトップの今後の無事を祈りたくなる会議はウクライナ侵攻の号砲となった。

◆アメリカのインテリジェンスの威力

侵攻開始に向けて着々と、ある意味、見え見えとも言える環境整備をロシアが進める一方で侵攻を受ける側のウクライナには最後まで「まさか、そんなこと」という空気が残っていた。ロシア軍17万人が目の前の国境沿いに集結しているにもかかわらず、ウクライナは「パニックを起こす情報は我々の助けにならない」（2月12日ゼレンスキー大統領）、「侵攻が迫っている兆候はない」（2月20日レズニコフ国防相）という姿勢を崩していなかった。

そうした中、ある国だけはロシアの大規模侵攻を正確に、しかも前の年の11月から訴えていた。アメリカだ。

ここに1枚の図がある。

去年12月3日付のワシントン・ポストが報じたアメリカの情報機関作成の文書とされるものだ。ウクライナ国境沿いにロシア軍17万5千人が集結していることを伝えている。

この文書の分析が秀逸なのはロシア軍部隊の規模がほぼ実際の侵攻時の規模と一致しているのみならず、東部ドネツクだけでなく、首都キエフ方面を含むウクライナ北東および南部からの侵攻ルートも正確に指摘していることだ。当時は多くのひとが軍事侵攻を疑っていたし、軍事侵攻の可能性があると言う人も東部ドネツク地方に限定されるとの見方が主流だった。

衛星画像の画質を落とす「サニタイズ」された公開用の文書になっているものの、2022年早々に軍事侵攻が迫っていることを正確に警告している。軍事侵攻のタイミングについては衛星画像で見える軍の準備状況から逆算したのであろう。当時の大方の予測と真っ向から反しながら、複数の方面からの攻撃を正確に予測できているのは、衛星画像で見える準備状況の分析に加えてロシア軍内の通信を傍受しているからだろう。

恐るべきはアメリカのインテリジェンスだ。その高い能力を「情報のための情報」に留めず（情報を内部で抱えず）、世論とロシアに対して訴えることで侵攻を抑止することに活用していることは特筆すべきだ。



人をつなぐ 未来につなぐ
SDGs

まいにち防災
災害を知り 命をまもる



ABEMA news / ABEMAで 24時間放送中
最新ニュースをチェック!!



テレビ朝日は
SDGs達成に向け
貢献してまいります。

スクープ映像を募集!



【放送されました】
ポンプ車など46台出動...住宅...

報道STATION



「作りやすく食べやすい」介護食“未来の食”変え...

¥8,140※法...

¥8,140※法人向け



スマホでニュースを見るなら！
テレ朝newsアプリ

PAGETOP

◆スパイを失っていたCIA

その一方でアメリカ政府は11月から、侵攻の4日前の2月20日までは「軍事侵攻の準備は進んでいるが、プーチン大統領はまだ最終決断していないとみられる」という立場で一貫してきた。これだけの情報が揃っているのになぜか。それはいくら高度なインテリジェンス能力を誇るアメリカの情報機関でも、さすがにプーチン氏の心の中をリアルタイムでうかがい知ることはできないからだ。

2月15日付のニューヨークタイムズがその背景を説明している。

アメリカ情報機関に強固な取材源を持つことで知られるデビット・サンガー記者らの記事だ。それによるとCIAはプーチン氏の側近の一人を情報源として獲得することに成功し、正確にプーチン氏の政策決定を把握してきたという。しかし、身の危険を感じた、その人物を2017年にロシアから脱出させてからはプーチン氏の日々の動きを正確に知ることはできなくなった。

ウクライナ侵攻に向けて軍事的準備が進んでいることに危機感をおぼえたアメリカ政府は、11月上旬までにこのインテリジェンスをヨーロッパの主要国とも共有して包囲網を築いたほか、パーンズCIA長官をモスクワに派遣し、アメリカ側の重大な懸念を伝えている。

アメリカはその高度なインテリジェンス能力による成果を最大限に活用、公開しながら、なんとか迫りくるロシアによる侵攻を抑止しようとしたのであった。

◆“ロシア軍一部撤退” 虚偽情報へのカウンター

インテリジェンスを通じて何が起きているのか、相手が何を仕掛けようとしているのか、正確な情報をつかめなければ、外交も交渉も軍事攻撃もできない。偽情報でこちらの行動を操ろうとする悪意ある相手に惑わされるだけである。

その典型的ケースが2月15日の「ロシア軍一部撤退」騒動だ。

ロシア政府報道官はベラルーシでの演習終了を受けてロシア軍の一部が撤退を開始したと発表した。同時にロシア国防省は「クリミアから引き揚げている」とする戦車の映像を公開した。緊張がずっと張り詰めた状況が続くと人間は本能的に「そうであって欲しい」という情報を信じなくなるものだ。日本でも「もしや緊張緩和か」と期待感が高まったが、アメリカ政府は即座にロシアの動きは虚偽であり、むしろ数日の間で最大7千人の増派をロシア軍はしていると反論した。

その後の実際の侵攻をみればロシア軍の発表は明らかなる偽情報であり、攻撃に向けて最終準備を悟られないようにするフェイントだ。何も情報がなければ、悪意ある国の情報戦に翻弄され、判断を迷わされることになるといういい例だといえよう。ましてや、インテリジェンスもなく国家として「のるか反るか」の重大決断をすとなれば、ただのギャンブルとしかいいようがない。アメリカは正確にロシア軍の動きを把握できていたからこそ、ロシアによる情報戦にカウンターを打つことができたのだ。

◆インテリジェンスというパワー 流出したロシア軍の文書

もう一ついい例がある。ロシアとウクライナによる停戦交渉が開始された時も日本の一部では期待感が高まったが、ワシントンでは誰も停戦交渉が成立するとは思っておらず筆者は日本との大きな温度差を感じた。その理由はロシア軍の現地での動きを見ていれば、当面ロシアが停戦を考えていないことは明らかであり、インテリジェンスを通じてそれを認識しているアメリカ政府からも停戦に関する期待感が伝わってくることもなく、アメリカメディアも専門家も停戦交渉には冷淡であったからだ。

インテリジェンスとはパワーだ。それがあれば有利に事を進められ、それがなければ、とんでもない悲劇に自らを突入させることになりかねない。



アメリカのインテリジェンス能力の威力をうかがわせる動きはほかにもある。

3月2日にSNS上に出回ったロシア軍の作戦計画書の一部とみられる文書。ウクライナ軍が入手したとされる文書でウクライナ国防省も公式フェイスブックでアップしている。

そこにはウクライナ侵攻作戦がロシア軍部によって2月18日に承認されたと考えられる押印がある。

また、部隊が使う暗号表とされる文書は、ウクライナ侵攻作戦の期間が2月20日から3月6日と想定されていたことを示すものとなっている。この文書が真正であればロシア軍は2月18日時点で20日から侵攻を開始し、15日間でウクライナ侵攻を完了させる計画だったことになる（真贋の検証は難しいが、ここではこの文書が真正であるという前提で話を進める）。

何らかの事情で遅れたのか、結果として侵攻のXデーは20日ではなく24日となった。

ここで注目したいのはロシア軍部が侵攻を承認したとされるのが2月18日という点だ。ワシントン時間2月18日の午後5時にバイデン大統領は会見をホワイトハウスで開いている。そこで突然、

「我々にはロシアが首都キエフを含む全土に対して攻撃を開始すると信じるに足るものを持っている」と警告した。

「軍事態勢としてはいつでも侵攻があってもおかしくない状況だが、プーチン大統領はまだ最終決断していない」というのが、それまでのアメリカ政府の公式見解だったが、そこから明らかに踏み込んだ表現だったので筆者も驚いたのをおぼえている。

これは何らかの方法でロシア政権内の意思決定をリアルタイムに近い形で把握していることを伺わせる発言だといえる。2月20日付のニューヨークタイムズ電子版は「バイデン大統領の踏み込んだ警告の背景にはインテリジェンス」と報じ、ロシア軍の動きに関するインテリジェンスに基づくもので「高い確信」を持っている、とする米政府高官の言葉を伝えている。

正確なインテリジェンスがあれば、最も適切なタイミングで的確なメッセージを打ち出せる、というインテリジェンスの効用を示している。逆に何も情報がなければ、ロシア側の偽情報やフェイントに惑わされながら、ひたすら平和を祈るだけだったかもしれない。

◆覆ったバイデンの融和路線

他方でインテリジェンスが戦争の到来を告げていたとしても、政治指導者はその表現にあえて「のりしろ」をつけるという政治判断もあり得る。知っていることをそのまま言わず、交渉の余地を残すというやり方だ。

2月20日、プーチン大統領がウクライナ東部のロシア人支配地域の独立を承認しようとする動きを見せていたが、バイデン政権は批判をヒートアップさせることはなかった。前述の通りバイデン大統領は20日の演説で「大規模攻撃に出ると信じるに足るものを持っている」とまで踏み込んだものの、「侵攻が始まろうとしている」と断定しようとはしなかった。逆に侵攻がなければプーチン大統領と首脳会談をおこなう用意があると明らかにする柔軟姿勢をみせていた。

翌21日、ロシアが独立を承認したドネツクとルガンスクに対する制裁が発表されたが、かねてよりいわれていた「強力な制裁」ではなく、ドネツク地域だけに限られた制裁であった。ロシア全体に影響が出るような制裁を明らかに避けた、小出し戦術であった。

その日の夕方におこなわれた記者ブリーフィング。その場でNSC（国家安全保障会議）高官も「同地域には2014年からロシア軍が駐留しており、今回、追加派遣があったとしても侵略とは断定しがたい」と、ドネツク進駐は侵攻だとみなさないことを示唆するかのような柔軟発言をし、「融和モード」をさらに演出した。

20日から21日までは明らかにバイデン政権なりのギリギリいっばいの「融和のバーゲンセール」の期間だといえた。ロシア軍の戦争準備が着々と進み、アメリカ政府もその動きを正確に把握しながらも、バイデン政権は「戦車はその姿を現す最後の瞬間まで外交努力を続ける」（プリンケン国務長官）と決め、最後の瞬間にプーチン大統領が心変わりして緊張緩和への向かうことに一縷の望



みかけたのであった。緊張緩和のわずかな可能性に賭けて、あえて事態の切迫を伝えるインテリジェンスとはそぐわない融和的な政治ポジションをとったのである。

だが、それは翌22日の朝に一変した。CNNでの生出演で国家安全保障担当次席補佐官が「侵攻がおこなわれつつある」と、対決モードに舵を切ったのであった。午後にはバイデン大統領自身が演説をおこない、「侵攻の始まり」だと一気にトーンを上げた。この時点で24日に予定されていたロシアとの外相会談もキャンセルとなり、ワシントンの空気は一気に開戦モードになっていった。この180° 転換ともいえる動きの背景に一体何があったのか。

次回

「ウクライナ侵攻 背後の情報戦 (2)

特殊作戦関係者が解剖する軍事インテリジェンス」に続く

ANN ワシントン支局 支局長 布施哲 (テレビ朝日)

千葉のリフォーム会社探し

約1,200社のリフォーム会社から優良会社をご紹介します・
www.homepro.jp

関連ニュース



変わり果てたキエフ ウクライナ大統領は「NATO弱腰」批判
[2022/03/05 19:05]



中国全人代開幕 ウクライナに触れず、台湾巡り米を牽制
[2022/03/05 18:30]



日本各地で「反戦！ウクライナ支援！」 故郷の母を想いデモ行進
[2022/03/05 18:15]



【速報】「ウクライナ2都市で一時停戦 住民の退避ルート設置」ロシア国防省
[2022/03/05 16:35]



「戦争を止める！」ウクライナ国旗を掲げ約3000人が渋谷をデモ行進
[2022/03/05 15:50]

Headline 注目ニュース



ウクライナ侵攻 背後の情報戦 (1) アメリカが見せたインテリジェンスの威力
[2022/03/05 20:00]



【速報】「マリウポリ市民の避難を延期 ロシア軍が停戦違反」ウクライナ当局
[2022/03/05 20:55]



停戦は7時間 住民が「退避ルート」をバスで移動
[2022/03/05 19:20]



“二刀流”村岡桃佳、スキー滑降で「金」！日本勢第一号
[2022/03/05 18:55]



水道管腐食で大量漏水、8カ月も放置 なぜ止めない？
[2022/03/05 19:45]



変わり果てたキエフ ウクライナ大統領は「NATO弱腰」批判
[2022/03/05 19:05]



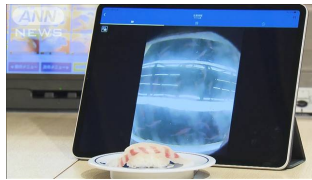
PICK UP

オススメ

一覧へ >



広瀬すずデビュー10周年 おでこに隠された深〜い話



「AI桜鯛」が回転ずしに登場 成育スピードなど調節



ロシアの富豪“オリガルヒ”制裁 プーチン氏周辺にジワジワ圧力

こんな記事も読まれています

わずか1年でオーナーが手放す車ランキング あの日本車も

AD (NewSphere)

霜降り明星せいや、新スーパー戦隊『暴太郎戦隊ドンブラザーズ…

(テレ朝POST)

トンネルでもスマホの電波がつながる仕組みとは？ 特急あずさの…

AD (TIME&SPACE)

ついに『相棒』卒業！ 巨（反町隆史）最後の事件に因縁のキャラ…

(テレ朝POST)

『となりのチカラ』第5話、シリーズ最大の感動回！松本潤も思わ…

(テレ朝POST)

葉加瀬太郎、SPドラマ『津田梅子』の音楽を手がける！愛娘もエ…

(テレ朝POST)

Recommended by popin

ANN ネットワーク

- > 北海道テレビ放送 > 青森朝日放送 > 岩手朝日テレビ > 東日本放送 > 秋田朝日放送 > 山形テレビ > 福島放送 > 新潟テレビ21
- > 長野朝日放送 > 静岡朝日テレビ > 北陸朝日放送 > 福井放送 > 名古屋テレビ放送 > 朝日放送テレビ > 広島ホームテレビ
- > 山口朝日放送 > 瀬戸内海放送 > 愛媛朝日テレビ > 九州朝日放送 > 長崎文化放送 > 熊本朝日放送 > 大分朝日放送 > テレビ宮崎
- > 鹿児島放送 > 琉球朝日放送

> 運営会社 > 個人情報等について > お問い合わせ

Copyright© tv asahi All rights reserved.

